

第2回 食に関する指導研修会

平成28年2月14日（日）に、新城市立新城小学校 教頭 中嶋 孝佳 先生をお招きし、「食に関する指導の視点・評価」という演題で研修会を行いました。

愛知県栄養教諭・学校栄養職員研究協議会116名の会員が参加し、教育実践論文を書くためだけでなく、物事の視点や考え方についても学ぶ、有意義な勉強会となりました。



<講師の中嶋先生>

<教育実践論文の書き方のすすめ>

★目の前の子どもの姿をとらえる

教育実践論文は、目の前の子ども達の実態や課題をとらえ、そこにかかる教師の願いを明確にすることがスタートであるため、子ども達を見る目が変わってくることで、そのためには、「課題」を発見する手立ての1つ「クロス集計」もできることをお話しいただきました。集計方法では、「朝食と学力」「朝食と問題行動」などの例をお示しいただき、食だけではなく、他との関連性にも目を向ける必要性を学びました。



<中嶋先生 講演の様子>

★論旨の通った教育実践論文を書くために

教育実践論文の冠である研究主題に「研究の目的」「研究の対象や領域」「研究の手立てや方法」の3要素を入れる工夫や、仮説や手立ての組み立て方法、根拠のある資料提示の大切さなど、論旨の通った論文を書くための視点を学びました。

★記録を残す

子供の行動や変容は具体的に記録しておくこと。また、記録することは、自分だけでなく、会員全体の共有財産となることを拝聴し、改めて記録の大切さを感じました。

講演は、先生オリジナルの「保存版資料」に沿って進められました。先生の工夫された、わかりやすく楽しい講義は、参加者を魅了し、「難しい！苦手！」という論文への意識を少しずつ取り除いてくれたように思います。講義終了時には、「明日から論文を書く視点で指導を進めていこう」「子供たちの実態をしっかりと見つめたい」など、会員らの「食に関する指導」への熱い思いを感じました。



<参加者の声>

- ・書くための視点・考え方をもつことで、指導力の向上に繋がることがわかりました。教育実践論文に取り組んでみようと思いました。
- ・難しいと思っていた論文への敷居が少し低くなりました。